つつ!



こうまく がいく

ゆちゃく

硬膜外腔癒着

かも知れません。



硬膜外腔癒着とは

背骨の中には硬膜に覆われた脊髄があり、神経が密集しています。肩から腕、腰から足の痛みをやわらげるため薬物療法や神経ブロックなどが行われますが、それでも改善しない場合は「硬膜外腔癒着」が疑われます。



その原因は

「硬膜外腔」は硬膜と背骨との間にある空間で、ここに 炎症が発生・出血すると周辺の組織が癒着し、痛みや しびれとなって現れます。炎症は「椎間板ヘルニア」「脊柱 菅狭窄症」「脊椎まわりの手術に伴う症状」などによって 起こりやすくなります。また、慢性的な痛みも癒着が原因の 場合があります。



癒着を剥がす

「硬膜外腔癒着剥離術」** は、こうした癒着をはがす治療法です。米国では1980年代から行われており、高く評価されています。

※主導した Racz 医師の名から $\lceil \operatorname{Racz} \operatorname{App} - \operatorname{App} - \operatorname{Racz} \operatorname{App} - \operatorname{Racz} \operatorname{App} - \operatorname{Racz} \operatorname{App} - \operatorname{App} -$

につこり。

へ 痛みが やわらいだ! よく眠れる ようになった!

`<mark>以前より</mark> |<mark>活動的になった!</mark> 、 毎日の生活が 豊かになった!



つらい痛みを取り除いて ADL (日常生活動作) の低化を防止! 豊かな QOL (クオリティ オブ ライフ) を実現!

● 硬膜外腔癒着剥離術に関するご質問は、当院窓口までお気軽にどうぞ。



硬膜外腔癒着剥離術

監修:NTT東日本関東病院 ペインクリニック科 部長 安部洋 一郎

痛いつつつ



そういえば…

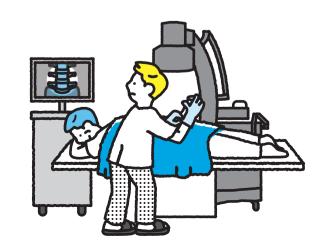
- 脊椎まわりの手術をしたことがある。
- **育柱管狭窄症だと言われた。**
- 椎間板ヘルニアと診断された。
- 🤼 病院でも分からないと言われた。

簡単な手術で、 癒着を剥離する。 硬膜外腔癒着剥離術。

局部麻酔を行い、X線透視下で手術が行われます。 医師は、画面に表示される透視画像を見ながら 慎重に手技を実施します。

手術の手順

- 腰・足の痛みの場合、仙骨裂孔などから 針を刺し、造影剤を注入します。
- 2 透視画像を見て、造影剤が行き届いていない い箇所があることを確認します。
- 3 Raczカテーテルを挿入し、目的の箇所に 届いたら薬液を注入します。
- 4 薬液とカテーテルの動きにより、癒着を剥離 していきます。肩・腰の痛みの場合も、同様 の流れで施術を行います。
- 5 術後はしばらく安静にしていただき、医師の 診断後、問題がなければ帰宅できます。なお、 症状によっては1~2泊の入院が必要になる 場合があります。また、再び癒着しないよう、 術後のリハビリも重要となります。



癒着剥離後のX線撮影画像

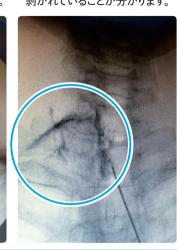
手術前

手術後

造影剤が行き届いていないところが癒着していると考えられます。

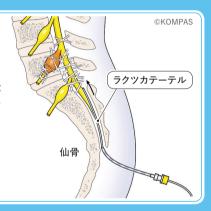
造影剤が行き届いて、癒着が 剥がれていることが分かります。





カテーテルによる 施術

仙骨裂孔などから Racz カテーテルを挿入し、癒着 箇所にアプローチします。

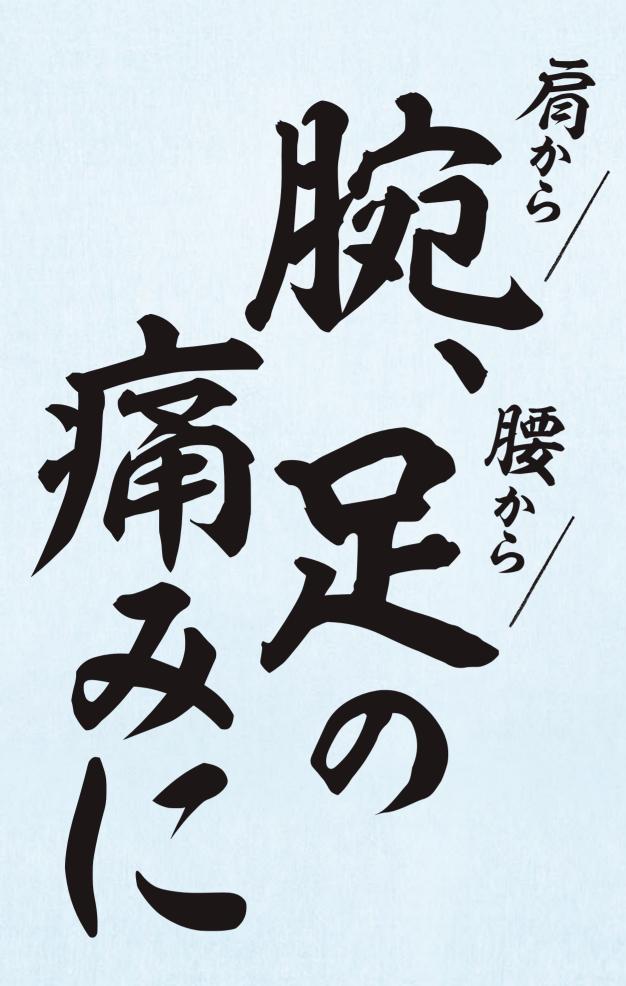


癒着部分を、剥離する

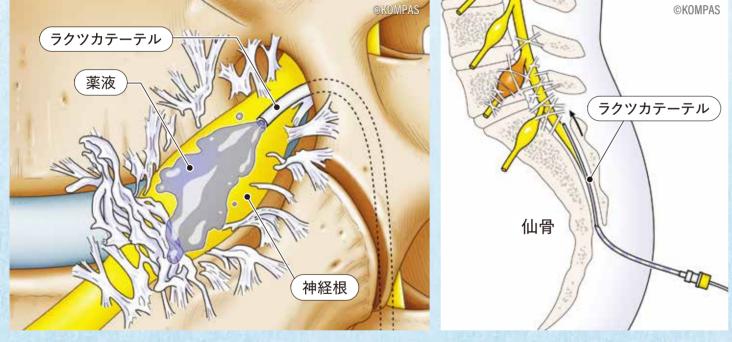
先端がコイル状で組織を傷つけにくいカテーテルを使用します。 カテーテルの動きも利用して癒着を剥離します。



解剖図: 慶應義塾大学病院「KOMPAS」より転載(http://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000818.html)







こうまく がいくう ゆちゃく はくりじゅつ

硬膜外腔癒着剥離循

薬液とカテーテルの動きによって、のご紹介。 癒着を剥離する手術です。

硬膜外腔は、脊髄をつつむ硬膜と背骨の間にある隙間です。ここで 組織の癒着が起こると腕や足に痛みが発生します。癒着は椎間板 ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎まわりの手術後などにも起こります。 痛みを取り除くことで、ADL(日常生活動作)や QOL が向上します。





当院医師までお気軽にご相談ください。

解剖図:慶應義塾大学病院「KOMPAS」より転載(http://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000818.html)



首、腰が痛い! そのお悩みに

※首は肩から腕を含みます。また、腰は股関節から足までを含みます。

がいくう ゆちゃく はくりじゅつ

硬膜外腔癒着剥離術



痛みの原因*は背骨の中にあった

※ MRI でも発見できないといわれています。

硬膜外腔は、脊髄をつつむ硬膜と背骨の間にある隙間です。 痛みは、ここで組織の癒着が起こっているからかも知れません。 癒着は椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、また、脊椎まわりの手術後にも起こります。 カテーテルと薬液を使用した剥離術は負担も少なく、注目されています。

解剖図:慶應義塾大学病院「KOMPAS」より転載(http://kompas.hosp.keio.ac.jp/contents/000818.html)

当院医師までお気軽にご相談ください。